

一貫教育校の広場

幼稚園

横浜初等部

普通部

中等部

湘南藤沢
中等部・高等部

高等学校

志木高等学校

女子高等学校

ニューヨーク学院
(高等部)

古いものから未来を考える練習

● 中等部 教諭 松本 守まつもと まもる

2021年5月慶應義塾ミュージアム・コモンズ (KeMCo) 以下、ケムコ)にて中等部生が新しい挑戦をしました。ケムコを媒介に異なる分野の人が交流しながら新しい教育の可能性を探る試みです。参加者は中等部、人文学オープンデータ共同利用センター (CODH)、斯道文庫、ケムコから集まり、少人数のワークショップ形式で実施。専門家のサポートのもと生徒が主体的に考えて活動していきます。テーマは「くずし字 AIで “触れる” 文字の成り立ち—みる・よむ・つくる」です。



ワークショップは「交景・クロス・スケープ」に展示された古典籍を教材に行われました。しかし、中学生は古典籍を読めません。そこで登場するのがくずし字 AI です。北本朝展 CODH センター長によるくずし字 AI の説明があり、早速タブレット端末をくずし字にかざしてみると AI が解読します。AI アプリの開発者カラースワット・タリンさんは「源氏物語」の研究者です。流暢な日本語で開発秘話を語ってくれました。きっかけは大学院の授業でくずし字を読むのに苦労したこと。一念発起して開発したわけは、ないものは自分で作ってしまおうというから驚きです。アプリのおかげで生徒は一気に「読める」へ意識が変わり、夢中になって漢字や仮名を一字一字確かめ始めました。部分的にでも読めると全体に

も目配りが利いてきます。そこで斯道文庫長佐々木孝浩先生による解説が加わります。『百二十句本平家物語』の解説では冒頭を暗唱した生徒と佐々木先生がやりとりする場面も。教科書の平家物語しか知らない生徒に朱引しゅびんなどの用語に至るまでわかりやすく教えてくださいます。本物を使った活動がテーマ「みる・よむ」の成果です。

次の仕掛けは展示作品から自分の “推し” を見つけること。 “推し” に着想を得たものからオリジナル作品をつくりきます。3Dプリンターやレーザーカッター、グリーンバックによる撮影など最先端のデジタル機器が整った環境で「つくる」活動が始まります。これは “推し” の作品を自分ごと化して表現する活動です。生徒が肌でとらえた本物の魅力をどう表現するかアイデアも問われます。参加者みんなの後押しを得て、自分の感性をかたちにする活動に取り組みました。古いものから新しいものを生み出す活動は、「みる・よむ」に「つくる」を組み合わせた活動です。

ケムコは義塾の宝物を大事に保存する場であると同時に、宝物を使って新しく何かを生み出す場でもあります。これから担う塾生が義塾の宝物を活かす活動に取り組むことは未来の塾生を育て、未来の義塾をつくる活動につながると思います。

※ワークショップ成果物はこちらからご覧いただけます
URL <https://objecthub.keio.ac.jp/ja/node/12299>